



国見山散策ガイド



雪がとける頃、濃緑の葉に
赤いユキツバキの花が彩りを添え、
国見山は春を迎えます

監 修：高木 政喜 (石川植物の会)
植 物 画：小牧 旌『加賀能登の植物図譜』より承諾使用
発 行：金沢市環境政策課 TEL(076)220-2507
発 行 日：平成30年3月



この用紙は再生紙を使用しています



金沢市

国見山自然環境保全区域

厳しい冬が終わりに近づき、山から雪が消えはじめる4月頃、ふもとではヤブツバキが咲き、やがて山頂でもユキツバキが花を咲かせ、国見山は一年で最も美しい季節を迎えます。

国見山には、**トキワイカリソウ**や**ユキグニミツバツツジ**、**オオバクロモジ**など「**日本海要素**」と呼ばれる日本海側を特徴づける植物が多く自生しており、比較的豊かな自然が残っています。特に、**ユキツバキ**や、ユキツバキとヤブツバキの自然交雑種である**ユキバタツバキ**が非常に多く自生しています。

また、国見山の自然をより知っていただくために遊歩道が整備されており、山の自然を満喫しながら散策が楽しめます。金沢市では、平成8年3月に、この地区およそ10ヘクタールを自然環境保全区域に指定し、環境を守ると同時に、みなさまに愛される山に育てていきたいと思っています。

ヤブツバキとユキツバキの見分け方



ヤブツバキ



ユキツバキ

日本海要素とは

日本列島の成り立ちや環境条件に基づいて、植物の分布は下の図のように区分されています。それぞれの地区には、ほかの地区には見られない特有の植物が何種類かずつ生えており、その地区を特徴づけています。

このうち、多くの雪が降る「日本海地区」を主な生育地にもつ植物を「日本海要素」と言っています。北陸地方、特に金沢市は、日本海地区の中心的位置にあります。



国見山に見られる主な日本海要素

ハイヌガヤ、オオバクロモジ、トキワイカリソウ、ユキツバキ、マルバマンサク、ホクリクネコノメ、キンキマメザクラ、エゾユズリハ、ツルシキミ、アカイタヤ、ヤマモミジ、スミレサイシン、ヒメアオキ、ユキグニミツバツツジ、ケナシヤブデマリ、タニウツギ、カガノアザミなどが林内に多く見ることができます。

国見山を彩る植物

春から夏にかけて様々な花、秋には落葉樹が国見山を彩ります。



スマレサイシン [多年草]

花は3~5月。日本のスマレの中でもっとも大きい葉をつけます。



ユキグニミツバツツジ [落葉低木]

4~5月、枝先に1個の花をつけます。



トキワイカリソウ [常緑多年草]

花は4~5月。花がイカリのように見えます。葉は冬になっても紅葉して残るので常盤(ときわ)といいます。



チゴリ
[多年草]

花は4~5月。



オオバクロモジ [落葉低木]

花は4~5月。



ケナシヤブデマリ [落葉大低木]

花は5~6月。



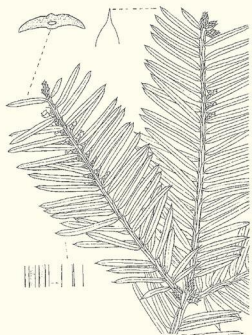
ササグリ [多年草]

花は6~7月。



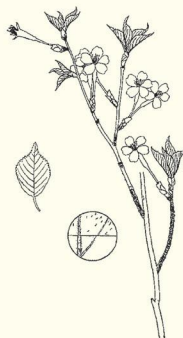
フナ、コナラ、ミズナラなどの樹木の中のユキツバキ群落。
4~5月には紅色の花を咲かせます。

国見山で見られる日本海要素



ハイヌガヤ

常緑低木。花は4~5月。雄株と雌株に分かれている。葉の裏面は白色。さわってもチャボガヤのように痛くない。



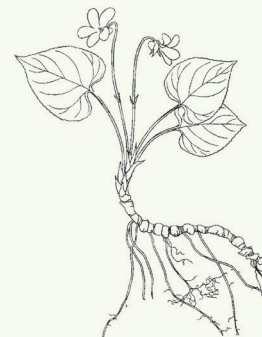
キンキマメザクラ

落葉小高木。花は4~5月、淡紅色。花は小形で萼の筒部が細長い。葉はやや小さく、緑に二重の鋸歯がある。



ヒメアオキ

常緑低木。花は4~5月、紫褐色。雄株と雌株に分かれる。アオキに比べやや小形で若枝や葉の柄にわずかに毛がある。



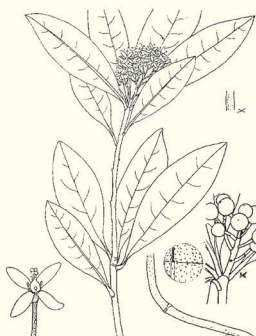
スミレサイシン

小形多年草。花は3~5月、濃紫色。花は葉より先に開く。スミレの中では花は大きい。



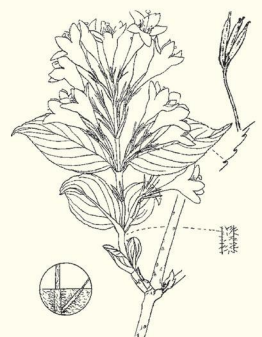
ヤマモミジ

落葉高木。花は4~5月、暗紅色。庭に植えられているイロハモミジに似ているが、葉はやや大きく切れ込みの数も多い。



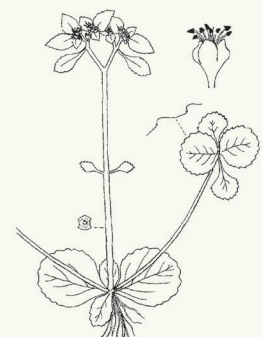
ツルシキミ

常緑低木。花は4~5月、白色。雌花と雄花に分かれている。果実は赤色。葉は厚く、輪生状につく。



タニウツギ

落葉低木。花は5~6月、淡紅色。日当たりの良い所に多い。葉の裏は毛が密生。



ホクリクネコノメ

小形多年草。花は4~5月、黄緑色。おしべは8個で萼より長い。根出葉は大きい。葉は対生。山の陰湿地に生える。